

釣れ釣れなるままに

2016年思い出の釣行記 PART. 2

ワカサギ4桁釣り 鹿島釣狂

【1月29日（金）8：00～15：00】

旭川の赤埴源蔵から電話がかかってきた。前回の好釣が忘れられず、一人で砂川遊水池に来るといふ。せつかなのでお付き合いすることになった。源蔵のテントに入ることにして、テントやアイズドリルは用意しなくてもよくなった。その代わりといつては何だが、ガスストーブと携帯コンロ、ヤカンを用意することにした。

7時半には湖畔に到着して源蔵を迎え、8時には釣り始めた。暖かかったので私が用意したガスストーブは使わず、そのストーブを入れた段ボールを源蔵との間に置いたのでよいテーブル代わりになった。さっそく、源蔵が栄養ドリンクをくれたが、私には栄養剤を飲む習慣はなく、段ボールの上に置いていたのだが、知らぬ間に雪の上に落ちていて帰りに気付いた状態だった。

順調に釣れた。源蔵は絶えず竿先を上下に揺らして誘いをかけているようだ。そしてその竿先のアタリで鋭くビシッと合わせているので、スレ掛かりも多い。私は、水に漂う水中ウキでアタリをとり、ツンと軽く合わせてからそのままゆっくりと引き寄せるので、その間に追い食いも多いのだ。2匹、3匹と連なってくる。

源蔵が私の仕掛に妙なものが付いているのを見つけた。今年になって発売された「ダイワワカサギ集魚花火」である。私のもう一つの手羽竿にも「花火」の赤を取り付けてあったので、その竿を手渡した。源蔵は、さっそくそれを使って釣り始めた。竿先でアタリをとるのではなく、氷の穴をのぞき込みながら、漂っている水中ウキでアタリをとるようにと勧めてみた。源蔵も快調に釣れだした。なんでも水中に漂っている「花火」で微妙なアタリをとっているらしいのだ。竿先に出る前のフワリとしたアタリもとれるようになり益々快調になってきた。その内に、ワカサギの食い込みをよくしようと、アタリに鋭く合わせるのではなく、一瞬竿をフカすような動作も入れるようになった。その効果は観面てきめんで2匹、3匹と連なってくるようになった。

私は、午後1時半からカウンターを使ってみることにした。今までは購入しただけで使

うことはあまりなかったのだ。指先で押すだけの作業なのだがその少しの間で手返しが悪くなる。先日、4桁の数字はクリアーしているので心には余裕がある。100匹目は30分でクリアーした。200匹目は、餌を付け替えたりする時間を挟んで1時間を10分ばかり超えていた。午後3時に終了したが、その時のカウンターの目盛りは264になっていた。

家に帰って本日の釣果を量ってみると2170gだった。100匹を量ると200g、1匹あたり2gということになる。ままた1000匹超え達成である。源蔵から電話があった。1100gあったという。500匹は超えていて、今までの記録を大幅に塗り替えたということだ。私があげた「花火」のお陰で、微妙なアタリに反応することができるようになり、過去最高の楽しい釣りができたと喜んでくれた。

こんなに簡単に千匹を超える釣りをしてしまうと、今までの釣りは何だったのだろうかと思う。これからは、千匹を超えなければ、楽しいと感じなくなってしまうのではなかろうか。今日は、源蔵に私の釣りを伝え、彼が実績を上げてくれたことにそれなりの満足感を覚えている。「おまえのお陰でワカサギ釣りのコツをつかんだ」と言ってくれることに悦に入っている自分がある。しかし、これからは何を目標として釣りをすることになるのだろうか。今までは千という目標があったから、なんとか少しでも釣果を伸ばそうと様々な工夫を凝らしてきた。もう、これからはそれがなくなるのだ。そう思うとワカサギ釣りがなんだか味気ないもののようにも思えてくる。1匹1匹に胸をときめかしたり、悔しい思いをしたりしたドキドキ感が今日は無かった。ただ機械的に釣っているだけでは虚しい気もしてくる。だからといって二千を目標にすればよいのだろうか。そうなるとまた新たに過酷なものが要求されるだろう。夜中中釣っているとか・・・。

釣りから離れていくのはそういったことにあるのだろうか。「鮒釣りから始まり鮒釣りで終わる。」と言われている。まだまだ鮒釣りには戻っていきたくない。新しい釣りに挑戦していくことになるだろう。



源蔵は過去最高の釣りをした



私も満足なのだがこの表情



最大 8.5 cm 最小 6.3 cm



1月29日の釣果2170g

【2月18日（木）8:00～15:00】

サロマ湖のチカ釣り行きを18日と定めて仲間にも誘いを入れていた。安兵衛の愛車である軽トラでは長距離ドライブは大変なので私が運転をすることになった。チカバリは3号を用意し、ガソリンも満タンにして準備を整え終わった。行程もカーナビに入れて履歴を押せば、湧別町テイネイ、芭露、志布志、佐呂間町若里（床丹）、富武士（とっぷし）、浪速（なにわ）、幌岩、浜佐呂間（佐呂間別川）、常呂町栄浦ができるようにしておいた。テイネイが駄目なら他へと移動できるように考えたのだ。

夜中の出発に備えて、寝床に入ろうとしているところに安兵衛から電話が入った。予定していたサロマ湖のチカ釣りは、行かない方が良さそうだ。何でも北見市にいる元同僚からの情報によると、サロマ湖は氷の上に水が上がって釣りどころではないそうだ。そういえば、好釣だったサロマ湖のチカ釣りが釣り新聞に出て来なくなっていた。

仕方がないので、旭川の連中も砂川遊水池に釣り場を移したという。「討ち入りの会」が組織された元々の張本人である浅野内匠頭がお出ましになるらしい。私こと吉良上野介は遊水池の氷の廊下でも歩いて、痲痺持ちの内匠頭をからかってやらなければなるまいて。

予定していた7時に私が到着すると、もう皆は揃っていた。しかし、駐車場の除雪がさ

れていなくて、安兵衛が通りかかった除雪車にお願いして車をおけるスペースを空けてもらったところであった。

二つのテントを張って、それぞれ二人ずつ入り込んだ。すぐにアタリが出て釣れ続いた。今日はカウンターを押して釣果を確認しながらの釣りとなった。そのカウンターを押す指が休まることがない。源蔵が私のことを「師匠、師匠」と言う。そして「さすがに名人は違うねえ」とも言う。初めの内はこそばゆい気持ちで聞き流していたが、このように釣れ続けると、そう言われることに満更でもない気持ちになる自分がいた。

内匠頭は、1昨日、奥さんとポーランド旅行から帰ってきたばかりだった。今までに世界各地40カ国以上を廻ったということだ。源蔵に誘われてやって来たが、彼も初めての釣りを経験した。今日は私に替わって源蔵が手ほどきをしていた。しかし、源蔵の講釈がやたらと多い。いや、他人の振りを視て我が振り直せか？結局、私が源蔵に講釈したことと同じようなことを言っているだけなのだ。

1時半に990を数えて、カウントダウンを始めた。カチ、カチ、91、92。カチ、カチ、カチ、カチ、93、94、95、96。カチ、97。カチ、カチ、カチ、98、99、1000！ またもや4桁の数字を突破したのだ。今日は最後までカウンターを押し続けて、その数字は1213を示していた。

家に帰って目方を量ってみると2410gだった。休んでいると安兵衛から電話が掛かってきた。安兵衛は2480gで私より釣っていた。源蔵は1kgで前回よりは少なかったがその訳は、孫弟子に指南していたからなのだろう。

今日の釣果を、混声合唱団練習に持っていった。前回、バスの連中に配ったのは300gを10袋にしていたが、今回は200gずつ12袋にしていた。そして、各パート関係なく早い者勝ちとした。練習会場の玄関で待って、出てくる団員に配った。「今日釣りたてのワカサギです。いりますか」と聞いたが、誰もいらぬというものはおらず、すぐになくなってしまった。

この次は、団員全員分を揃えることは出来ないだろうか。練習日には40名ぐらいの参加がある。全員に200gずつ渡すとして、締めて8kgのワカサギとなる。これは1日の釣りとしては不可能で、今日のような釣り方だと連続して4日間も遊水池に討ち入りしなければならぬのだ。また、釣りたての新鮮なワカサギにこそ意味があるのだ。「討ち入りの会」に応援を頼もう。玄関の出口に「今日釣りたてのワカサギです。新鮮さは請け負います。ご自由にお持ち帰り下さい。」と張り紙してクーラーにでも入れておこうと思う。でもそれは来年のことになるようだ。千匹に替わる新たな目標が出来た。



左が浅野内匠頭、今日は赤埴源蔵が指南役を果たした。



カウンターの1170は最終的に1213でストップした。

【2月25日（木）7：30～14：30】

堀部安兵衛から電話がかかってきた。25日、砂川遊水池に今年度最後のお別れをしてくるというのだ。遊水池は2月末までと期間が定められている。今年は閏年なので2月29日までだ。ここ1週間は降雪も少なく、除雪もせずに毎日ごろごろしているのも心身共によくないということで私も最後のお務めをすることにした。赤埴源蔵も一緒である。それでは3人一緒ということで、私がテントを用意することにした。携帯コンロやヤカンも持っていくことにした。サシは前回の残がある。ブドウ虫も使っていない。

いつもより早めに6時半に遊水池に着いた。すると見慣れた軽トラとプリウスが駐車してあったが当人たちが見えない。安兵衛に電話すると、「お前のテントのガスストーブの火力が弱いのではと心配して一応自分のテントと石油ストーブを用意してきた。あまりに早く着いたので先に釣っていた。」というのだ。

安兵衛は早くも100匹を超える数を釣っていた。源蔵は20匹ぐらいだろうか。そして「朝早く来ても駄目なもんだな。」と宣う。安兵衛のテントは荷物が多くて二人しか入れないので、私の4人用のテントを張ることにした。だだっ広いテントにもかかわらず、なぜだか何時もの癖で隅っこの方に釣り座を構えてしまった。全ての荷物を中に入れても隙間だらけなのが寂しさを募らせる。しかし、集中力は出た。

今日も順調に釣れた。しかし、それは最初だけで9時を回ると次第に怪しくなってきた。隣のテントも同じようで、深棚にもいないようだ。私が愛用している手羽竿で届く棚より若干深いところで回遊しているようだ。リール竿を持ち出して、その棚を狙った。氷直下よりはマシなようだったが手返しが悪く釣果も上がらない。

「おーい。生きてるか」と隣のテントから声が掛かった。なんとか釣果を上げる工夫をしようと試行錯誤して臨んでいたために口数が少なくなっていたのだ。先日、ここオアシスパーク遊水池で、父親とワカサギ釣りをしていた岩見沢市の小学6年生2人が、テント内で意識を失い病院に搬送されたという報道があったばかりだ。砂川署では、テント内でホワイトガソリンを使った携帯ストーブの不完全燃焼による一酸化炭素中毒の可能性があるとコメントを出していた。

今日は風はないが久しぶりに冷え込んでいた。それで、テントのトップの空気穴から吹き込む雪が気になっていたところだった。そして、それがはらはらと舞い散る度に寂しさを募らしていたのだ。そんな時、屋外からスピーカーの大音響ががなり立ててきた。先日の中毒事故を受けて換気には十分気をつけて下さいという警察署からのものだった。心配はないものの方が一ということがある。一人の釣りなので心置きなく煙草を吸い続けて霽っていたこともあって、両扉を開けてテント内の空気を入れ換えた。

なんだか寒くなってきた。ガスストーブに手を翳してみると、火が消えていた。新品のボンベのガスがなくなっていたのだ。前回の半分ぐらいの釣果しかなかったがさすがに手が冷たい。携帯コンロ用のボンベに付け替えて、釣り続けた。

隣のテントから声が掛かった。終了の目処としていた3時には1時間も早いそろそろ

片付けないかというものだった。午後になっても釣果が上がってくる気配が感じられなかったのですぐに同意した。そして、小用をもよおしていたので、氷の穴に向かってジョボジョボとやった。テント内で味わうこの後ろめたさは、なかなか乙なものだった。はじめからそれ用にもう一つ穴を開けておくべきだったと思ったほどだ。ジョボッ。

今日の釣果は、1220gの574匹だった。安兵衛に電話してみると源蔵に持たしたのもあるので正確には分からないがおよそ1200gということだった。今年は本当によい釣りをさせてもらった。今年の釣行は7回だったがその内の4回で4桁超を達成しているのだ。この砂川遊水池は「オアシスパーク高度利用研究会」が組織されて毎年のようにワカサギの放流を実施してきた。この研究会の放流事業がないとこのような釣果に恵まれることはなかっただろう。しかも、これだけの釣果がありながら入漁料はない。せめて、その高度利用研究会とやりに浄財させていただこうと思う。チャリーン。